

June
2013

The Record

vol.643

平成 24 年度事業報告

2012 年世界の音楽産業



®

RIAJ
Recording Industry Association of Japan

Contents

Monthly News Digest.....	1
特集	
平成 24 年度事業報告.....	3
2012 年世界の音楽産業.....	7
ヒット曲で振り返る昭和.....	11
Data File.....	12
Monthly Production Report.....	13
GOLD DISC.....	14

4/28

レコード寄贈贈呈式実施

当協会は、認定 NPO 法人ラブ&ハーモニー基金の協力のもと、4月28日に大阪府和泉市のエコールいずみ アムゼモール広場においてレコード寄贈贈呈式を実施、和泉市社会福祉協議会に音楽 CD200 枚を寄贈した。

当日は同基金主催による、平尾昌晃さん、春奈佑果さん、田川裕之さん、平尾昌晃ミュージックスクール大阪校生徒のみなさんが出演したチャリティーコンサート「出逢い☆ありがとうライブ in いずみ」の中で贈呈式を実施した。同基金による記念品寄贈に続き平尾昌晃さんから、和泉市社会福祉協議会有里榮陽会長に音楽 CD200 枚の目録と本イベント出演者 CD が手渡された。同コンサートには、和泉市内の福祉施設利用者と関係者の方々ならびに東日本大震災避難者を中心とした 200 名が招待され、連休中に同ショッピングセンターを訪れた方々など大勢の来場者で賑わった。



5/9

音楽議員連盟総会開催

5月9日、東京都千代田区の参議院議員会館において、音楽議員連盟（音議連）総会が開催された。音議連は、音楽、演劇、映画などの我が国の芸術・文化振興に向けた諸課題に取り組むため、

1977年11月の結成以来、1984年の「貸レコード暫定措置法」の施行、2001年の「文化芸術振興基本法」の議員立法での成立など、文化芸術立国に向けて、多くの成果を上げてきた。

総会では、活動の充実に向けた規約改正が行われ、音楽議員連盟を「文化芸術振興議員連盟」とする名称の変更が承認された。また、河村建夫衆議院議員を会長とする役員の新体制が決定されたほか、以下3項目による2013年度活動計画（案）が承認された。

[2013年度活動計画（案）]

1. 2014年度文化庁予算の大幅増額をめざす
2. シンポジウム「文化省の創設を考える（仮題）」を秋に開催する（10月30日予定）
3. 映画・映像問題研究会を秋に設置し、研究を進める
デジタル化、グローバル化した社会のなかで、映画・映像の権利のあり方および懸案の著作権・隣接権課題を検討する

当日は、超党派衆参国會議員に加え、当協会など文化芸術推進フォーラム加盟の芸術関係団体が参加した。

5/31

理事会・総会開催

5月31日、東京都千代田区の東京會館において、当協会は第463回理事会、定時総会を開催し、平成24年度事業報告書、決算報告書などが承認された。事業報告書の詳細については、本誌3～6ページ「平成24年度事業報告」に掲載。



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

佐藤修 当協会顧問が旭日中綬章を受章

平成25年度の春の叙勲において、当協会の佐藤修顧問（株式会社ポニーキャニオン非常勤相談役）が旭日中綬章を受章した（4月29日付け）。

佐藤修顧問は、昭和39年に日本ビクター株式会社（現・ビクターエンタテインメント株式会社）に入社以来、日本のレコード産業の振興に数多くの功績を残してきた。

当協会関係では、昭和63年の理事就任以降当協会の要職を歴任、平成16年からは当協会会長として、多方面にわたり音楽文化の発展に尽力してきた。

平成11年には、8年間にわたって貸レコード対策委員会委員長として、貸レコードに関する基本ルール作りを行ったことが高く評価され、「著作権法百年記念特別功労者」として文化大臣表彰を受けた。

平成16年に当協会会長に就任してからは、私的録音などの著作権問題の解決に取り組むとともに、日本音楽のアジア地域などへの積極的な普及を図るための環境整備に取り組み、日本の音楽文化の海外での普及に貢献したことなどが高く評価され、平成18年春に藍綬褒章を受章した。

平成19年には、明治から昭和初期に製造されたSP盤音源のデジタル保存を図るため、歴史的音盤アーカイブ推進協議会の設立に尽力するとともに、平成20年には同協議会の代表幹事に就任し、国立国会図書館を通じて、音楽・演説・講演など、歴史的価値の高い貴重な音源の保存と国民への公開に努めている。

このように長くレコード会社の要職にあり、世界第一位の市場を持つわが国レコード産業と日本の音楽文化の維持・発展に対する多大なる貢献が評価され、今回の受章となった。

なお、当協会歴代会長の叙勲受章は平成13年秋の乙骨剛氏以来となる。



RIAJ2013年5月度理事会・総会議案

第463回理事会(平成25年5月度)議案
[5月31日開催]

■ 審議事項

1. 平成24年度事業報告書(案)の件
2. 平成24年度決算報告書(案)の件
3. ミュージックジャケットギャラリー2013への後援および協賛金支出の件
4. レコード倫理審査会学識経験者委員の増員に関する報酬を予備費より支出する件
5. 「日本ゴールドディスク大賞」の今後の方向性について
6. 今年度の海外市場向け施策(J-Music Laboプロジェクト)について

■ 名義使用申請報告

1. CDV-JAPAN「CDVJ ショップコンテスト2013」後援依頼

■ 報告事項

1. 法制委員会関係報告
(1) 文化審議会著作権分科会(5/8)報告
2. 著作権保護・促進センター関係報告
(1) 2013年度削除要請目録件数およびスマートフォン違法アプリについて
3. マーケティング委員会関係報告
(1) 大人の音楽キャンペーン第10弾について
(2) ミュージック・ジャケット大賞2013について
4. その他報告
(1) IFPI中央理事会(5/15)概要報告

定時総会議案 [5月31日開催]

■ 審議事項

1. 平成24年度事業報告書(案)の件
 2. 平成24年度決算報告書(案)の件
- 以上2件、いずれも承認された。

入会のご挨拶

この度は一般社団法人日本レコード協会の準会員として入会ご承認いただき誠にありがとうございます。

弊社は映画・演劇興行といった映像や舞台を中心に、質の高い娯楽を広くお客様にご提供できるよう、創始者小林一三翁の「朗らかに、清く正しく美しく」の理念を基に、昨年創立80周年を迎えることができました。

従来からの事業である映画・演劇でも音楽事業との関わりはございましたが、今般本格的にアニメーション事業に取り組み、音楽制作・プロモーション・販売まで一貫して従事していくこととなりました。

新参者ではございますが、様々な可能性を秘めた作品を世に送り出していけるよう、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら努力して参る所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



東宝株式会社

東宝株式会社
代表取締役社長 島谷能成

平成24年度事業報告

平成24年4月30日に当協会は創立70周年を迎えた。この節目の年の6月20日には「著作権法の一部を改正する法律」が通常国会において成立し、音楽業界の悲願であった「違法配信であることを知りながら、有償の音楽・映像を私的使用目的で複製する行為」（私的違法ダウンロード）に罰則が設けられた。この改正著作権法は同年10月1日に施行され、当協会は、他の音楽権利者団体とともに「STOP！違法ダウンロード広報委員会」を設立し、法改正を広く国民に周知するための各種広報活動に施行前から取り組んだ。

平成24年の市況を振り返ると、レコード等の生産実績については、オーディオレコード（CD等）の年間生産金額が前年比108%となり、平成10年以来14年ぶりに前年を上回り、音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）の年間生産金額も前年比110%と2桁の伸びを記録した。他方、有料音楽配信の売上金額は、インターネットダウンロードの年間売上金額が前年比143%と2年連続の2桁成長となったものの、全体では前年比75%と大幅に減少した。この結果、音楽ソフト（オーディオ+音楽ビデオ）の生産金額と有料音楽配信売上の合計は3,651億円、前年比103%となり、平成19年以来5年ぶりに前年を上回った。

平成24年度、当協会は、8項目の重点施策（①「違法音楽配信の撲滅」、②「需要拡大施策の展開」、③「レコード製作者の権利収入の拡大と適正な分配」、④「レコード製作者の権利の確保、強化」、⑤「シェアードサービスの拡大」、⑥「著作権教育・啓発活動の充実」、⑦「シンクタンク機能の充実」及び⑧「音楽文化の維持、発展のための施策」）を中心に以下の事業を推進した。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 音楽CD再販制度の維持

- (1) 会員各社の再販弾力運用の取組みを報告書にとりまとめ、3月に公正取引委員会へ提出するとともに、当協会ホームページで公表した。
- (2) ユーザーサービスの一環として実施しているインターネット廃盤セールを、1月9日から1月23日の間実施した。

2. レコードの需要拡大施策の展開

(1) 「CDショップ大賞」の充実・強化

CDショップの活性化を目的とする「CDショップ大賞」について、店頭展開・広報展開の支援を行った。3月7日にZepp Diver City Tokyoで開催した第5回授賞式の模様は、主要なテレビ・ラジオ番組やウェブニュースで取り上げられ、顕彰の認知拡大と店頭における受賞作品の売上増に繋がった。

(2) 大人の音楽キャンペーンの実施

会員15社が参加する合同キャンペーンを年2回（6月11日～8月31日および10月2日～12月31日）実施した。各回とも対象商品のパンフレットを作成・配布し、コンピレーションCD4タイトルを中心とした店頭キャンペーンを行うとともに、4月～12月の9カ月間、ラジオ番組「Age Free Music ～大人の音楽」を放送した。

(3) 高音質/高品質discの普及促進

高音質・高音質商品の魅力をユーザーへアピールするため、日本オーディオ協会主催「オーディオ・ホームシアター展」に音楽物Blu-ray Disc (BD) のブースを出展、また、同イベント内の「音のサロン」において、高音質・高品質CD (Blu-spec CD2、HQCD、SHM-CD等) の講演・試聴会を実施した。また、音楽物BD商品530タイトルを掲

載した「BD Music カタログ」10万部を年末商戦期に合わせ販売店へ配布した。

(4) ミュージック・ジャケット大賞の実施

CDジャケットの魅力に訴求しパッケージ商品の購買拡大に繋げることを目的に創設した「ミュージック・ジャケット大賞」の第2回を実施し、10月16日に大賞1作品、準大賞2作品および特別賞を発表した。投票数、公式サイトへのアクセス数ともに対前年で大きく伸び、TV、新聞、ウェブニュース等で取り上げられた。あわせて大手CDショップでの店頭展開を行った。

3. 「日本ゴールドディスク大賞」の実施

第27回となる今年度の大賞は、1月7日の当協会賀詞交歓会および同日プレスリリースにて発表した。TV5局12番組のほか、新聞各紙、Webサイトで多く取り上げられた。

4. 有料音楽配信チャートの活用

有料音楽配信チャートは、一定の役割を終えたことから、7月27日の公表をもって休止した。

5. 日本音楽の海外展開の促進

(1) 音楽産業・文化振興財団（PROMIC）主催の「東京国際ミュージックマーケット」（TIMM）に参画した（13カ国・地域から87名のバイヤーが来日）。3月末時点の成約件数は、CDパッケージ9件、配信854件、ライブ13件、TV放映1件となった。

(2) 日本音楽情報ポータルサイト「Japan Music Entertainment」は、コンテンツ充実化等の対応によりアクセスが大きく増加したが、費用対効果等を鑑み3月31日をもって終了した。

6. 大学寄附講座の開設

平成23年度に続き、横浜国立大学（経済学部対象）にて寄附講座「コンテンツビジネスと法」を開講した。秋学期の10月2日から1月29日まで全15コマの講義を実施し、履修生は91名となった。なお、同校の学生による授業満足度評価では、本講座は3.70（4点満点・法律系科目の平均は3.37）と高い評価を受けた。

7. RIAJセミナーの開催

会員社を対象に7回開催した。

8. その他

“Music J-CIS”（Music Japan-Copyright Information Service）の構成団体として活動を行った。音楽権利情報データベースを充実させるため、平成24年度発売新譜等の楽曲情報取り込みを実施した。その結果、平成24年度末時点での収録楽曲総件数は約423万件まで拡大した（前期末約404万件）。

[2] レコードに関する調査研究および資料の蒐集に関すること

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績、並びに四半期毎の音楽配信売上実績を集計し公開した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

「2012年度音楽メディアユーザー実態調査」を実施し、ユーザーの音楽利用実態の推移や音楽消費の変化に関する要因分析を行い、会員社向け報告会を開催するとともに調査結果を当協会ホームページ上で公開した。

[3] レコードを通じた音楽文化の保存に関すること

1. 歴史的音盤のアーカイブ事業の推進

歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）を中心にSP盤等の音源デジタル化作業を進めた。平成24年度は10,001音源を国立国会図書館に納入し、その結果、平成21年度から24年度までの4年間で約48,700音源の納入が完了した。国立国会図書館に納入した音源は、同館館内のほか、同館の許可を得た公共図書館や研究機関等において聴取可能となっている。

2. 「文化庁芸術祭」への協力

「第67回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として65作品を参加申請し、参加が承認された32作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

3. 「日本プロ音楽録音賞」の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する「第19回日本プロ音楽録音賞」を、当協会と日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本オーディオ協会、演奏家権利処理合同機構MPNIにより共催し、12月6日に授賞式を開催した。

[4] 著作権および著作権隣接権等の普及・啓発に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

- (1) 動画共有サイト、ストレージサービス、携帯電話向けサイトなどに対する年間の削除要請件数は約33万件に増加した（前年度約27万件）。
- (2) 中国の動画共有サイト等について、当該サイトの訪問など直接的なアプローチを強化したところ、当協会の削除要請への対応において大幅な改善が得られた。
- (3) 平成23年8月に会員社等31社が原告となり東京地裁に提訴した、YouTubeからの動画ダウンロード支援サイト「TUBEFIRE」を運営するミュージックゲート社との訴訟に関して、当協会は会員社の訴訟関係実務を支援した。
- (4) 携帯電話向けの違法情報フィルタリングや削除要請等の対策に加えて、他の音楽権利者団体と協力して導入した違法アップロード監視対策等の効果により、フィーチャーフォン向けサイトにおける違法音楽配信の実態が大幅に改善した。
- (5) スマートフォンを用いた違法音楽配信について、違法な音源や画源をリンクにより提供するアプリケーションの開発者・提供者等への対応を開始した。
- (6) 音楽ファイルの違法アップローダーや海賊盤の頒布者に対する告訴した事件について20件（20名）が逮捕に至った（昨年実績17件）。
- (7) 「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」（CCIF）が実施するプロバイダを通じた違法ユーザーへの警告スキームの取り組みを継続し、2,301件の啓発メールを送付した。
- (8) ファイル共有ソフトを悪用した違法ユーザーについて、プロバイダに対する発信者情報開示請求訴訟を通じて開示された31名に関して和解等すべての対応が完了した。

2. 違法音楽配信を撲滅するための法整備の推進

6月20日に「著作権法の一部を改正する法律」が通常国会において成立し、「違法配信であることを知りながら、有償の音楽・映像を私的使用目的で複製する行為」（私的違法ダウンロード）に罰則が設けられ、10月1日に施行された。

3. 「違法配信からのダウンロード違法化」等の啓発キャンペーンの実施

- (1) 6月20日に成立した私的違法ダウンロード罰則化を受けて、9月10日に設立した音楽関係7団体による「STOP！違法ダウンロード広報委員会」を中心に周知キャンペーン（①動画共有サイト等での広告展開（7億回表示）、②検索サイトのSEO、SEM対策、③映画館で本編前に上映されているCM「NO MORE 映画泥棒」のリニューアル、④全国の中学校・高等学校等に対する周知ポスターの作成と送付（のべ24,000枚配布）、⑤CDショップ店頭での啓発ポスター掲示（6,600枚配布））を実施した。

- (2) エルマーク（適法配信識別マーク）について、「試聴のみ可」、「ダウンロード可」、「転載可」の3つの利用形態を識別するマークを追加し、12月17日に導入した。このエルマークの認知拡大のため、ホームページの該当部分をリニューアルするとともに、若年層への認知を促進すべくキャラクター「エルマーくん」を導入した。

4. 著作権教育活動の実施

- (1) 若年層への著作権教育の機会増大のため、中高生の会員社への職場訪問を拡大すべく旅行代理店・教育関係者へのアプローチを実施し、平成24年度の受け入れ実績は、5,820名（前年度3,831名）となった。
- (2) NPO法人企業教育研究会（ACE）と連携し、教員および教育学部在籍生を対象に「社会とつながる音楽・教育研究会」と題した勉強会を平成24年8月および平成25年3月に実施した。
- (3) NTTドコモ主催「ケータイ安全教室」（平成24年度は年間70万人が参加）において、当協会の啓発リーフレットを配布、また、平成25年度からKDDI実施の「ケータイ教室」でも同リーフレット配布が決定した。

5. 「レコード保護期間」の延長に向けた活動

他の権利者団体と協力し、国会議員や関係省庁に対して、レコード保護期間延長の必要性について理解を得るための働きかけを行った。

6. 「私的録音録画補償金制度」の見直しを求める活動

- (1) 他の権利者団体と協力し、関係省庁等に対して、権利者への対価還元施策の必要性について理解を得るための働きかけを行った。
- (2) 私的録音録画補償金管理協会（SARVH）一東芝間の訴訟について、11月8日、最高裁への上告が棄却され敗訴が確定した。当協会はSARVHの構成団体として本件訴訟において必要な支援を行った。

7. レコードの業務上の利用から適正な対価が還元される制度創設に向けた活動

実演家団体と合同で制度創設に向けた検討を継続して行った。

[5] レコード等に関するデータの公表

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2013」を和文、英文で発行し、当協会ホームページ上でも公開した。また、当協会創立70周年記念誌を発行した。

2. ホームページの運営

著作権法改正に伴い、当協会サイトを改定した。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料収入確保のための検討

- (1) 日本放送協会との間で、平成23年度～24年度の二次使用料について、平成25年2月に最終合意に達した。
- (2) 衛星放送については、衛星放送協会との間で平成24年単年度の二次使用料について合意に達した。
- (3) ケーブルテレビについては、日本ケーブルテレビ連盟（JCTA）との間で、平成21年度～30年度の二次使用料について10年契約が成立した。
- (4) 二次使用料・複製使用料等の徴収額の合計は60億2,800万円（前年度比1.1%増）、権利者分配額は56億100万円（前年度比1.6%増）となった。

2. 二次使用料実績分配の運用開始

実績分配システムについて、平成23年度の実施結果を検証し、システムによる自動照合率向上などの必要な改修を行った。

[7] レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理に関する取組

- (1) 複数の具体的なサービスや利用形態を想定し、集中管理範囲の拡大に関する検討を開始した。
- (2) 使用料規程において未整備の利用形態について関係事業者との協議を開始した。

[8] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

- (1) 徴収額は37億8,500万円（前年度比11.8%増）、権利者分配額は35億7,600万円（前年度比12.2%増）となった。
- (2) 邦盤レコードにかかる分配方法の変更について、分配規程の改定および関係団体との協定書を締結し、2月には、新ルールに基づく第1回分配を行った。

[9] 私的録音録画補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

1. 私的録音補償金

私的録音補償金管理協会（sarah）から7,400万円（前年度比10.4%増）を受領し、6,600万円（前年度比11.8%増）を権利者に分配した。

2. 私的録画補償金

私的録画補償金管理協会（SARVH）から1,500万円（前年度比74%減）を受領し、1,300万円（前年度比75%減）を権利者に分配した。

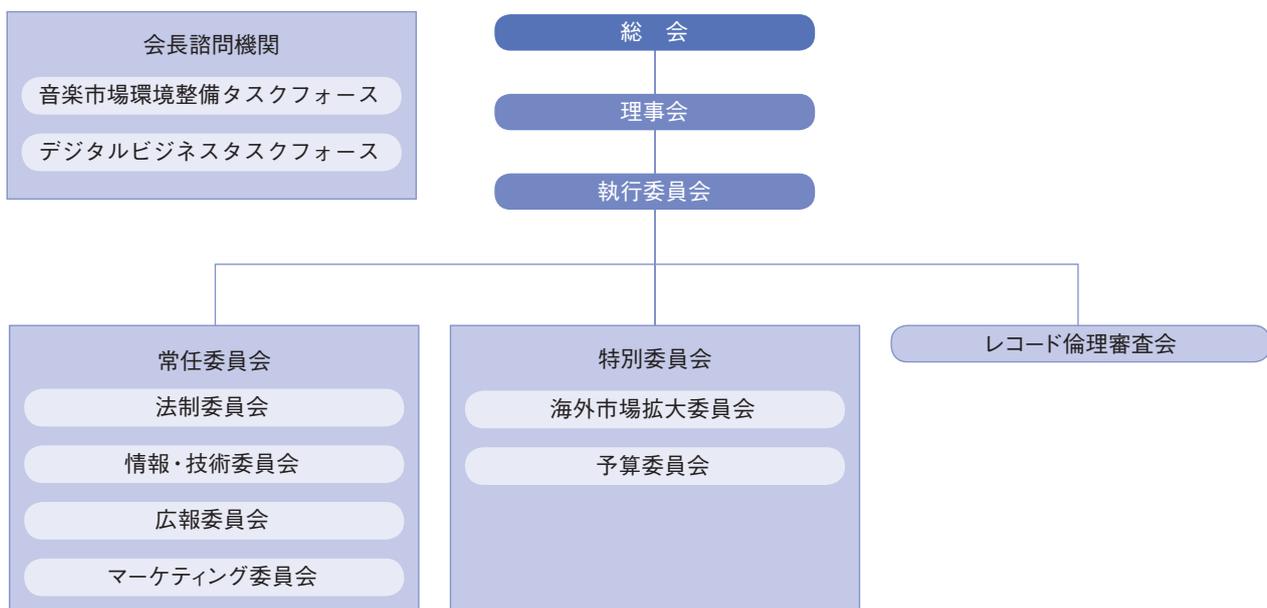
[10] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等
文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見の表明を行った。
2. 国内・国外の団体、機関との連携活動
国内の音楽関係団体並びに国際レコード産業連盟 (IFPI) 及びアメリカレコード協会 (RIAA) 等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を実施した。
3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営
月次会議にて会員社から発売される全邦楽作品9,256点について審査を行った。
4. 業界規格 (RIS) の制定と改正
日本レコード協会規格 (RIS) 504別冊「各種コード一覧表」(2013年3月版) を発行した。
5. “ISRC” (International Standard Recording Code) の管理機関としての活動
登録者コードの新規発行件数94件 (前年度75件)、個別コードの発行曲数は16,927曲 (前年度16,694曲) であり、3月末の累計数は登録者コード1,589件、個別コード97,774曲となった。

6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈
今年度 (第50回) は、約10,000枚の音楽CDを福祉施設453箇所および東日本大震災被災地の臨時災害放送局12局と仮設住宅の集会所へ寄贈した。
7. 会員社業務の集約化 (シェアードサービス)
 - (1) 放送局向けオンライン・プロモーションの有効性を検証する実証実験を、全国FM局の協力のもと11月中旬から2月末にかけて行った。
 - (2) 違法音楽アップロードの探索・削除要請にかかる会員社業務を集約化し、大幅な対策強化を図るため、「著作権保護・促進センター (CPPC)」の設置準備を行った (平成25年4月1日設置)。また、貸レコード使用料等の新分配方法に関する共通システムを開発し、導入した。

運営体制

平成24年度における当協会の運営体制は次の通りである。



以上

2012年世界の音楽産業

IFPI (国際レコード産業連盟) は、年次レポートの「Recording Industry In Numbers 2013」を発行した。2012年の世界の音楽産業の動向をダイジェストで紹介する。

世界音楽売上実績

2012年の全世界音楽売上（パッケージ売上、有料音楽配信売上、演奏権（使用料）収入、シンクロ収入の合計）は165億ドルとなり、対前年比で0.2%の微増となった。上位20カ国中9カ国、また20位以下の22カ国において、2012年はプラスに転じる結果となった。項目別では、パッケージ売上以外のすべて（有料音楽配信売上、演奏権（使用料）収入、シンクロ収入）で2011年よりも増加したが、これは有料音楽配信ビジネスの確立、収入源の多様化、新人アーティストへの投資・育成の成果が理由として考えられる。

上位20カ国中では、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、中国、インド、日本、ブラジル、メキシコ、オーストラリアの音楽売上が増加した。特にインドは、有料音楽配信売上が全体の60%を占める急成長を見せ、過去最高の売上金額となった。一方、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダといったヨーロッパの主要マーケットは、マイナス成長が続く結果となった。アメリカは、パッケージ売上の急激な落ち込みにより、音楽売上合計で0.5%減となった。

また、イギリスは音楽売上は減少したものの、ユーロ安の

影響から、ドイツを抜いて世界3位へ順位を上げた。対前年比4.7%減となったオランダは後退し、イタリアに9位の座を明け渡した一方、スウェーデンとインドはそれぞれ12位、14位と順位を上げた。ノルウェーも18位に上昇、中国は南アフリカを抜いて20位にランクインした。オーストリア、ベルギー、スペイン、スイスの4カ国は2011年から順位を下げた。

2012年の音楽売上が伸長した背景として、有料音楽配信売上が58億ドル（8.0%増）と好調だったことが挙げられる。ダウンロード売上が引き続き伸びたことに加え、サブスクリプションサービスの普及が進んだこと、音楽ビデオのマネタイズ（収益化）向上、インターネットラジオのユーザー数増加が貢献した。また、サブスクリプションやストリーミングサービスの広告収入も増加を続けており、このふたつを合わせると、配信売上全体の20%（ヨーロッパのみでは31%）と高い割合を占めているが、ダウンロードが配信売上における主

● 世界音楽売上（2011年－2012年）

金額：百万 US ドル（卸価格ベース）
※ 2011年、2012年ともに2012年レートで換算（1ドル＝79.82円）

	2011年	2012年	前年比
パッケージ売上	9,893	9,403	▲ 5.0%
有料音楽配信売上	5,371	5,798	+8.0%
演奏権収入	862	943	+9.4%
シンクロ収入	330	337	+2.1%
合計	16,456	16,481	▲ 0.2%

出典：IFPI「Recording Industry In Numbers 2013 Edition」

● 世界音楽売上 — 収入シェアの推移（金額）



出典：IFPI「Recording Industry In Numbers 2013 Edition」

●世界音楽売上推移（金額）



※卸価格ベース

出典：IFPI [Recording Industry In Numbers 2013 Edition]

柱である状況に変わりはない。

世界的に見ても、有料音楽配信売上は音楽売上合計の35%を占めるまでに成長し、多くの国で最大の収入源となっている。上位20カ国中の5カ国（アメリカ、スウェーデン、ノルウェー、中国、インド）では、有料音楽配信売上が音楽売上合計の50%超となった。また、有料音楽配信売上が大きなシェアを占める国は、パッケージ売上シェアが高い国よりも、音楽市場が好調な傾向が見られる。ヨーロッパ上位5カ国（イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ）では、唯一イギリスが、有料音楽配信売上シェアが39%となり、世界平均の35%を上回った。

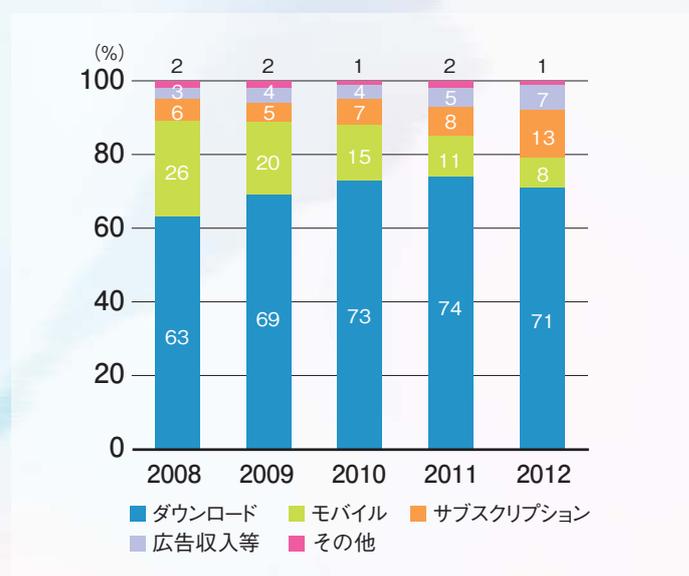
演奏権（使用料）収入は、ラジオテレビなど放送における音楽の使用料、レストランなどでの演奏に係る使用料から構成され、2012年は対前年比9.4%増の9億4,300万ドルであった。演奏権（使用料）収入は、音楽売上において最も急成長している分野で、世界売上全体では6%、ヨーロッパとラテンアメリカに限ると10%を占めている。

シンクロ収入（テレビ広告、映画、ブランド広告などにおける音楽使用に係る収入）も継続的に伸長しており、2012年は対前年比2.1%増の3億3,700万ドルとなった。しかし、国によっては厳しい経済情勢の影響により、ゲーム分野におけるシンクロ収入が減少し、シンクロ収入合計にもマイナスの影響を与えた。市場調査会社のNPD Groupによると、2007年から2009年では、アメリカの音楽ゲーム売上は年間10億ドル（小売金額換算）以上あったが、2010年以降は需要の急激な落ち込みに伴い下降線をたどり、2012年には5,000万ドルを下回るまで減少した。ただし毎週新曲が更新され、頻繁なダウンロードが可能なダンスゲームの

おかげで、近年の音楽ゲームの落ち込みがいくぶん軽減されている。

パッケージ売上が大きなシェアを占めている状況は続いているものの、その割合は、2008年の74%から2012年には57%まで縮小している。店舗内の売場面積の縮小、音楽消費の流れが徐々にパッケージから有料音楽配信へ移行していることなどが影響している。とはいえ、日本や韓国などのアジアの数カ国では、世界的な傾向に反して、2012年のパッケージ売上が増加した。

●有料音楽配信売上 — フォーマット別割合



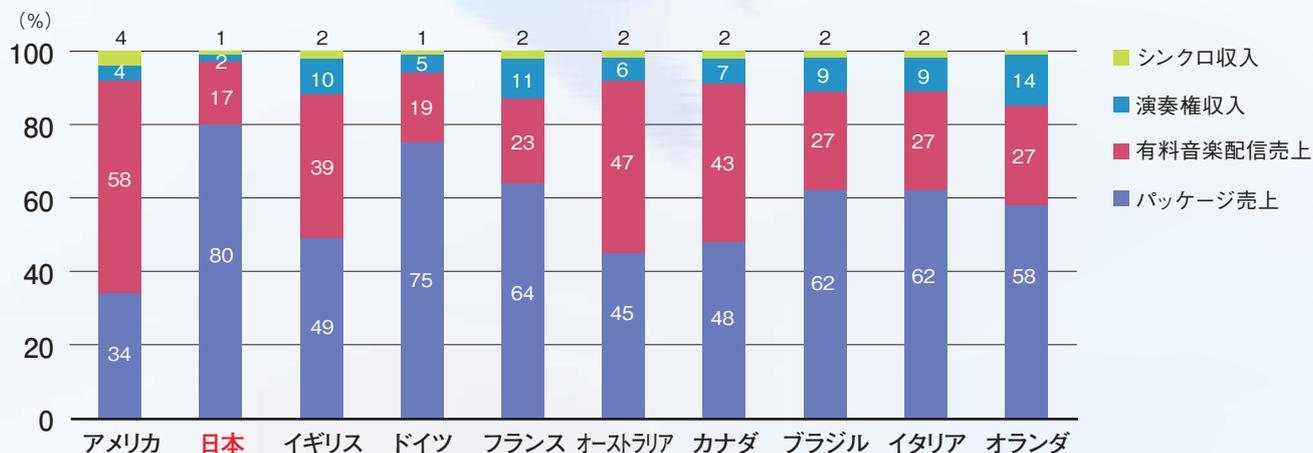
出典：IFPI [Recording Industry In Numbers 2013 Edition]

●2012年 世界音楽売上 TOP20

	国名	卸価格ベース			収入シェア			
		USドル (百万)	現地通貨 (百万)	対前年比	パッケージ売上	有料音楽 配信売上	演奏権 収入	シンクロ 収入
1	アメリカ	4,481.8	4,481.8	▲0.5%	34%	58%	4%	4%
2	日本	4,422.0	352,967.9	4.0%	80%	17%	2%	1%
3	イギリス	1,325.8	835.2	▲6.1%	49%	39%	10%	2%
4	ドイツ	1,297.9	1,012.3	▲4.6%	75%	19%	5%	1%
5	フランス	907.6	707.9	▲2.9%	64%	23%	11%	2%
6	オーストラリア	507.4	492.2	6.8%	45%	47%	6%	2%
7	カナダ	453.5	453.5	5.8%	48%	43%	7%	2%
8	ブラジル	257.2	504.1	8.9%	62%	27%	9%	2%
9	イタリア	217.5	169.6	▲1.8%	62%	27%	9%	2%
10	オランダ	216.3	168.7	▲4.7%	58%	27%	14%	1%
11	韓国	187.5	211,877.7	▲4.3%	55%	43%	2%	-
12	スウェーデン	176.7	1,197.7	18.7%	32%	59%	8%	1%
13	スペイン	166.6	129.9	▲5.0%	53%	27%	19%	1%
14	インド	146.7	7,888.5	21.6%	31%	60%	7%	2%
15	メキシコ	144.5	1,903.1	8.2%	63%	35%	1%	1%
16	スイス	128.5	120.8	▲14.2%	61%	32%	7%	-
17	ベルギー	121.5	94.8	▲6.3%	64%	18%	17%	-
18	ノルウェー	118.3	688.6	6.7%	31%	57%	11%	1%
19	オーストリア	96.2	75.0	▲12.4%	65%	21%	13%	1%
20	中国	92.4	583.8	9.0%	18%	82%	-	-
	世界合計	16,480.6	-	0.2%	57%	35%	6%	2%

出典：IFPI [Recording Industry In Numbers 2013 Edition]

●2012年 世界音楽売上 TOP10 — 収入シェア別割合



出典：IFPI [Recording Industry In Numbers 2013 Edition]

アジア市場

2012年、アジア全体の有料音楽配信売上は対前年比19%減となった。モバイルの落ち込みが最大の原因である。また、アジア地域でiTunesが開始されているものの、決済方法であるクレジットカード普及率が欧米に比べて低いこと、海賊盤が多いことが障壁となり、ダウンロードモデルの本格的な普及には至っていない。一方で、サブスクリプションサービスは成長基調にあり、モバイル音楽配信売上の低迷をカバーしている。

日本はパッケージ売上が13%増となった結果、音楽売上全体もプラスに転じた。日本ではパッケージ売上が全体の80%を占めているが、これは世界でも最も高い割合と言える。2012年はCDシングルが好調だったが、特にAKB48はシングルすべてがミリオンを記録するなど、大きく貢献した。AKB48のCDには、写真や握手会への参加券など、様々な付加価値が同梱されている。また、CDアルバムも対前年比11%増と伸長した。KARAや少女時代のアルバムでは、メンバーそれぞれをジャケット写真に起用した複数のバージョンでCDが発売されており、多くのファンによる複数枚購入につながったと考えられる。CDを多様な付加価値をもって商品とする新たなマーケティング手法により、パッケージ売上が押し上げられた例と言える。嵐やEXILEといったアーティストによる国内コンサートのコンピレーションアルバムやライブコンサートDVDも、パッケージ売上の伸長に大きく貢献した。一方、日本の有料音楽配信売上はパッケージの成長とは対照的に対前年比25%減と急減した。これはモバイル市場の低迷と、インターネット上の著作権侵害の影響を受けたものである。この対策として、2012年10月より違法ダウンロード刑事罰化が施行され、一般認知率向上に向けた取り組みが行われている。

韓国の有料音楽配信売上は、韓国最大規模のSNS提供会社であったCyworldの破綻により深刻な影響を受けたものの、2013年には回復が見込まれている。他方、パッケージ売上は、アジアにおけるK-pop人気に牽引され、対前年比19%増と大きな成長を遂げた。少女時代やビッグバンは国境を越えて成功している韓国人アーティストの例である。ビッグバンは2012年、13カ国48公演超で75万枚を超えるコンサート・チケットを売り上げ、世界的に100万枚以上のアルバムセールスを達成した。

インドの音楽売上は、2012年に過去最高を記録し、全体で対前年比22%増となった。そのうち音楽配信売上は60%を占

める。インドの音楽市場はこの10年間で大きな変容を遂げており、特にサブスクリプションとストリーミングサービスはシェアを拡大している。Airtel、Vodafone、Idea、Tata Docomoといった携帯電話会社が、ringtone、ringback tone、MP3ダウンロード、携帯でのストリーミングサービスまでの音楽配信市場を席巻している。携帯電話ラジオサービスも進化しており、多言語チャンネルやプレイリストの他にも、(利用者が好みの曲まで曲を飛ばすことができる)スキップ機能などを提供している。Airtel社の携帯電話ラジオサービスは月額利用料0.6ドルで毎月300分の聴取が可能である。

インドの音楽市場では、Nokia社のMusic Unlimitedも重要な役割を担っている。2011年12月に開始されたこのサービスは、Nokiaの携帯端末を購入すれば、DRMフリー音楽ファイルを“好きなだけ”ダウンロードできるというものである。インド第2位のISPであるReliance Communications社との提携を通じて、このダウンロードのサービス費用は携帯電話利用料に組み込まれており、決済にクレジットカードは不要である。2012年12月にiTunesがインドに進出しているが、そのシェアはまだ限定的である。

中国では、合法的な音楽市場の形成が依然として主要な課題ではあるものの、改善の兆しも見られる。2012年には音楽売上全体で9%増加し、世界音楽売上トップ20に再びランクインした。有料音楽配信売上は総売上の82%を占めており、これは上位20カ国中で配信売上比率が最も高い結果となった。有料音楽配信売上が対前年比で17%増加したことで、パッケージ売上のマイナス分17%を十分にカバーした。

中国は音楽産業にとって非常に大きなチャンスのある市場でもある。Boston Consulting Groupの予想では、中国は今後3年間で日本を抜いて、世界第2位の消費大国になると予測されている。2020年までに、中国の富裕層は全人口の約20%もしくは2億8,000万人に達すると予想されている。携帯電話市場として中国を見ると、人口の43%が携帯電話を契約しており、すでに世界最大のマーケットとなっている。音楽は、携帯電話、PCの双方において、中国のエンターテインメントの中心コンテンツとなっている。今後、コンテンツ流通がマネタイズされ、アーティスト育成への投資や合法的な経済活動の拡大につながる事が期待される。

ヒット曲で 振り返る 昭和



歌は世につれ世は歌につれ—。

音楽評論家・反畑誠一氏の執筆のもと、

時代を彩ったヒット曲から、激動の「昭和」を追想する。

昭和 56 年 (1981 年)

S56「悪女／(唄) 中島みゆき」

(作詞・作曲) 中島みゆき

(株)ヤマハミュージックパブリッシング監修によるオフィシャルデータブック「中島みゆき」によると、「1975(S50)年9月25日に「アザミ嬢のララバイ」でデビューして以来、中島みゆきはそれぞれの時代に真摯に向き合ってメッセージを発信し続け、2013(H25)年4月現在までにオリジナルアルバム39枚、シングル43枚を発表してきた。そのなかには、75(S50)年の第10回ポピュラーソングコンテスト本選会および同年の第6回世界歌謡祭でグランプリを獲得した「時代」、オリコン1位に輝いた「わかれうた」(77年=S52)、「悪女」(81年=S56)、「空と君のあいだに」(94年=H6)、「地上の星」(2000年=H12)など、多くの人々に親しまれただけでなく、それぞれの時代や国境を越えて聴かれている曲も少なくありません」と記されている。

文字どおり彼女は、歌を歌う日本を代表する女性シンガー・ソングライターである。もちろん「悪女」の作詞・作曲は中島みゆき本人。自らプロデュースしたアルバム「寒水魚」の1曲目にも収録されている。「アコースティックギターを中心とした軽快なアンサンブルとキャッチーなメロディー、そして「悪女」というキーワードを巧みに活かしたキュートでドラマティックな詞の相乗効果で、中島みゆき=暗いという先入観を裏切る、ポップでありながら心にしみ入るうたとして、それまで彼女の歌に接点を持たな

がった層にもアピールした」(前出「データブック」より)。

このアルバムには「鳥になって」という歌も入っていた。仕事に追われながら夜更けに聴いていると「悪女」とは真逆の心が凍てつくような思いをした記憶が蘇る。「悪女」を初めてライブで聴いたのは、彼女が1981-1982(S56-57)にかけて行ったコンサート・ツアー「寂しき友へ」の東京厚生年金会館公演だった。「ひとり上手」に続いて2曲目に歌った。S36年4月、森繁久彌のこけら落とし公演でオープンした「厚生年金会館ホール」は、H22年3月29日、みゆきと同郷の松山千春が公演を行いホールの歴史に幕を閉じた。

中島みゆきはH元年(1989)から「夜会」という名の創作音楽劇のロングラン公演を昨年まで継続的に行うなど還暦を越えた現在でも精力的に音楽活動を継続している。その彼女を世に送り出すきっかけにもなった「時代」(S51)は、東日本大震災により傷ついた多くの人々が、この歌に勇気づけられており、「この曲の持つ普遍的な面を改めて再認識することになった。ユーミンと並び、日本を代表する女性シンガー・ソングライターの代表選手である」(長井英治「日本の女性シンガー・ソングライター」より)。

ジャケット写真協力：一般財団法人古賀政男音楽文化振興財団
株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ



S56「ギンギラギンにさりげなく／(唄) 近藤真彦」

(作詞) 伊達歩 (作曲) 簡美京平

S54年7月携帯型ステレオカセットプレーヤー「ウォークマン」が発売され、音楽文化・産業に変革をもたらした。その影響力は、ラジオ、テレビなど電波メディアにも波及し、アイドル・ブームが到来する。きっかけの一つになったのは学園ドラマ「3年B組金八先生」。生徒役としてジャニーズ事務所所属の田原俊彦、野村義男、近藤真彦がおり、たのきんトリオの名称でファン層を拡大し、歌手デビューも果たした。愛称マッチこと近藤真彦は、S55年12月、映画の主題歌になった「スニーカーぶるーす」(RVC)で歌手デビューを果たした。話題の「ギンギラギンにさりげなく」は、翌年9月、第4弾シングルとしてリリースされた。

フィルム、食品2社の大型タイアップがつき、彼の人気度、期待度が全面的に演出されていた。テレビの歌番組「ザ・ベストテン」(TBS系)、「ザ・トップテン」(日本テレビ系)全盛期で、オリコンチャートの首位争いも熾烈であった。新曲発売時期のマッチの対抗は、松田聖子の「風立ちぬ」。一旦首位を取られたが再び1位を獲得し、彼自身の売り上げ実績では2番目のヒット曲になった。作詞は伊達歩。作家・伊集院静のもう一つのペンネーム。作曲がヒットメーカーの簡美京平という強力コンビでヒットが生まれた。

結果は、第23回日本レコード大賞最優秀新人賞や第12回日本歌謡大賞音楽新人

賞、第10回FNS歌謡祭最優秀新人賞などを獲得。大晦日の第32回NHK紅白歌合戦では白組のトップ歌手として初出場を果たし、「ギンギラギン…」を熱唱した。ちなみに田原俊彦は「悲しみ2(TOO) ヤング」を、松田聖子は「夏の扉」を歌唱した。その後、この歌はプロ野球団ロッテマリーンズの応援団が選手別応援歌として使用し、定詰雅彦についてH19~21年まで田中雅彦選手の応援歌になっていた。

在京のFM局、J-WAVEの開局(S63)がJ-POPの語源になったと言われるが、作曲家簡美京平は、歌謡曲からJ-POPへ進化していく牽引者であった。年代別シングル曲の売上げで見ると、S35-44年代の第1位は「ブルー・ライト・ヨコハマ」(いしだあゆみ)。S45-54年代は「魅せられて」(ジュディ・オング)。そしてS54-H元年は、近藤真彦が歌唱した「スニーカーぶるーす」「ギンギラギンにさりげなく」「ブルー・ジーンズメモリー」がベスト3を独占した。CDが市場に出る前、レコード時代の簡美マジックである。

ヒット作品作りの秘訣について簡美氏は、「僕の感覚では、“作品”のクオリティも高く“歌”もスゴイ、歌手と一緒に“跳ねる”ような形が理想ですね」(JASRAC会員作家インタビューより)。音楽配信の時代になってもこの極意は普遍であろう。

ジャケット写真協力：株式会社ソニー・ミュージックレコーズ



当時の出来事

S56：(エンタメ業界)

- 寺尾聰「ルビーの指環」大ヒット
- 日本劇場(日劇)48年の歴史に幕
- ピンク・レディー解散、後楽園球場でさよなら公演
- テレビドラマ「北の国から」放映開始
- 黒柳徹子「窓ぎわのトットちゃん」発売ベストセラーに
- 田中康夫「なんとなく、クリスマス」発売

- 写真週刊誌「FOCUS」創刊
- 映画「エレファント・マン」封切

(その他一般)

- 京都初の地下鉄、烏丸線開業
- チャールズ皇太子とダイアナ世紀のロイヤル・ウェディング
- 国鉄「フィルムーン夫婦グリーンバス」発売
- 福井謙一氏、ノーベル化学賞受賞
- “なめんなよ” “なめ猫” 大ブーム

- 糊つきメモ用紙「ポスト・イット」発売、付箋紙タイプが大ヒット
- 「サントリー 缶入りウーロン茶」発売(100円)、ロングセラー商品に
- 山手線初乗り運賃110円
- 郵便料金・葉書30円、封書60円
- 大卒男性(事務系)初任給124,822円



反畑誠一(音楽評論家)
立命館大学産業社会学部
客員教授(「ポピュラー音楽概論」)、日本音楽著作権協会理事、日本レコード大賞常任実行委員

2013年第1四半期 有料音楽配信売上実績

2013年第1四半期は、数量で前年同期比75%の5,878万ダウンロード、金額で前年同期比70%の108億5,300万円となった。

なお、今回より、「IFPI（国際レコード産業連盟）統計区分への対応」「(将来的な)新デバイス・新サービス開始時における迅速な対応」「(生産実績、新譜数など)パッケージ統計との区分統一」を目的として、統計区分をデバイス別からサービス形態別の新区分に変更した。

(数量：千回/金額：百万円)

	形態	2013年1月～2013年3月 累計			
		数量	前年同期比	金額	前年同期比
Master ringtones		7,225	48%	667	45%
Ringback tones		17,282	79%	1,330	69%
シングルトラック	PC配信・スマートフォン	22,882	133%	3,687	136%
	フィーチャーフォン	8,853	43%	2,483	35%
	小計	31,735	84%	6,170	63%
アルバム	PC配信・スマートフォン	1,611	165%	1,696	159%
	フィーチャーフォン	1	-	1	-
	小計	1,612	165%	1,697	159%
音楽ビデオ	PC配信・スマートフォン	604	83%	160	84%
	フィーチャーフォン	321	36%	112	31%
	小計	925	57%	272	49%
その他	サブスクリプション (PC配信・スマートフォン)	-	-	388	395%
	サブスクリプション (フィーチャーフォン)	-	-	32	48%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)	-	-	298	72%
	小計	-	-	718	124%
総合計		58,780	75%	10,853	70%

注：数量・・・ダウンロード回数

有料音楽配信 統計区分 変更について

(旧区分) デバイス別

インターネット ダウンロード	シングルトラック
	アルバム
	小計
	音楽ビデオ
	その他
	合計
モバイル	Ringtones
	Ringback tones
	シングルトラック
	音楽ビデオ
	その他
合計	
その他	サブスクリプション (インターネット)
	サブスクリプション (モバイル)
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)
総合計	



(新区分) サービス形態別

Master ringtones ^{注1}	
Ringback tones ^{注2}	
シングルトラック	PC配信・スマートフォン
	フィーチャーフォン ^{注3}
	小計
アルバム	PC配信・スマートフォン
	フィーチャーフォン
	小計
音楽ビデオ	PC配信・スマートフォン
	フィーチャーフォン
	小計
その他	サブスクリプション (PC配信・スマートフォン)
	サブスクリプション (フィーチャーフォン)
	その他 ^{注4} (その他のデジタル音楽コンテンツ)
	小計
総合計	

注1 (例) 着うた® 注2 (例) 待ちうた、メロディコール

注3 (例) 着うたフル® 注4 (例) 着信ボイス、着メロ、壁紙、アプリなど

※着うた®, 着うたフル® は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

Monthly Production Report

2013年4月度レコード生産実績

4月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比95%の1,835万枚・巻、金額で同95%の206億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比87%の1,376万枚・巻、金額で同79%の135億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比129%の459万枚・巻、金額で同154%の71億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

	4月実績						2013年1月～2013年4月累計							
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比		
シ	8cmCD	邦	7	0	140%	5	0	160%	12	0	41%	8	0	33%
		洋	0	0	-	0	0	-	0	0	200%	0	0	99%
		計	7	0	140%	5	0	160%	12	0	41%	8	0	34%
ン	12cmCD	邦	4,061	30	75%	2,898	21	69%	17,286	29	98%	12,254	20	93%
		洋	10	0	14%	8	0	7%	168	0	27%	122	0	27%
		計	4,071	30	74%	2,906	21	68%	17,454	29	96%	12,376	20	91%
ル	小計	邦	4,069	30	75%	2,903	21	69%	17,297	29	98%	12,262	20	93%
		洋	10	0	14%	8	0	7%	169	0	27%	122	0	27%
		計	4,078	30	74%	2,911	22	68%	17,466	29	96%	12,384	21	91%
12cmCD アルバム	邦	7,160	52	97%	8,204	61	79%	32,803	54	104%	38,674	64	93%	
	洋	2,328	17	86%	2,221	16	105%	9,459	16	85%	8,561	14	86%	
	計	9,488	69	94%	10,424	77	83%	42,262	70	99%	47,236	78	92%	
CD 合計	邦	11,228	82	88%	11,107	82	76%	50,100	83	102%	50,937	84	93%	
	洋	2,338	17	84%	2,228	16	100%	9,628	16	82%	8,683	14	84%	
	計	13,566	99	87%	13,335	99	79%	59,728	99	98%	59,620	99	92%	
アナログ ディスク	邦	1	0	-	2	0	-	36	0	66%	48	0	365%	
	洋	8	0	87%	11	0	73%	39	0	148%	61	0	182%	
	計	9	0	98%	13	0	87%	75	0	93%	109	0	233%	
カセット テープ	邦	142	1	78%	91	1	66%	548	1	77%	419	1	75%	
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	0%	0	0	0%	
	計	142	1	78%	91	1	66%	548	1	76%	419	1	75%	
その他	邦	23	0	203%	31	0	205%	51	0	90%	70	0	115%	
	洋	24	0	47%	51	0	76%	98	0	46%	192	0	55%	
	計	47	0	76%	82	1	100%	148	0	56%	262	0	64%	
合 計	邦	11,395	83	88%	11,231	83	76%	50,734	84	101%	51,473	85	93%	
	洋	2,369	17	83%	2,290	17	99%	9,765	16	82%	8,936	15	83%	
	計	13,764	100	87%	13,520	100	79%	60,499	100	98%	60,409	100	92%	

● 音楽ビデオ

	4月実績						2013年1月～2013年4月累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
DVD	邦	4,255	93	138%	6,204	87	185%	17,650	89	103%	21,162	78	120%
	洋	135	3	68%	126	2	62%	652	3	36%	727	3	39%
	計	4,390	96	134%	6,331	89	178%	18,302	92	96%	21,889	80	112%
Blu-ray Disc	邦	188	4	72%	731	10	75%	1,435	7	183%	5,171	19	189%
	洋	11	0	44%	30	0	45%	88	0	60%	221	1	57%
	計	199	4	69%	761	11	73%	1,524	8	163%	5,392	20	173%
テープ・その他	0	0	430%	0	0	205%	2	0	125%	4	0	96%	
合 計	邦	4,443	97	133%	6,936	98	161%	19,087	96	106%	26,337	97	129%
	洋	146	3	66%	157	2	58%	741	4	38%	948	3	42%
	計	4,589	100	129%	7,092	100	154%	19,828	100	100%	27,285	100	120%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

	4月実績						2013年1月～2013年4月累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
オーディオ	13,764	75	87%	13,520	66	79%	60,499	75	98%	60,409	69	92%	
音楽ビデオ	4,589	25	129%	7,092	34	154%	19,828	25	100%	27,285	31	120%	
合 計	邦	15,838	86	97%	18,166	88	95%	69,822	87	103%	77,810	89	103%
	洋	2,515	14	82%	2,446	12	95%	10,506	13	76%	9,884	11	76%
	計	18,353	100	95%	20,613	100	95%	80,327	100	98%	87,694	100	99%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

	4月実績						2013年1月～2013年4月累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	8,613	81	129%	14,750	70	148%	31,864	81	98%	48,069	68	99%
テープ・その他	1,987	19	153%	6,392	30	176%	7,253	19	146%	22,851	32	164%
合 計	10,600	100	133%	21,142	100	155%	39,117	100	104%	70,920	100	113%

● オーディオ/ビデオ合計

	4月実績						2013年1月～2013年4月累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	13,764	56	87%	13,520	39	79%	60,499	61	98%	60,409	46	92%
ビデオ	10,600	44	133%	21,142	61	155%	39,117	39	104%	70,920	54	113%
合 計	24,364	100	102%	34,662	100	113%	99,616	100	100%	131,329	100	102%

備考 1.本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む
2.単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある
※オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● プラチナ

5TH DIMENSION	ももいろクローバーZ	2013.04.10	K
---------------	------------	------------	---

● ゴールド

Lesson 1	E-girls	2013.04.17	AMI
BOφWY THE BEST "STORY"	BOφWY	2013.03.21	UM

シングル

● ダブル・プラチナ

EXILE PRIDE ～こんな世界を愛するため～	EXILE	2013.04.03	AMI
---------------------------	-------	------------	-----

● プラチナ

へそ曲がり／ここにしかない景色	関ジャニ∞	2013.04.24	TE
-----------------	-------	------------	----

● ゴールド

SPARK	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2013.04.24	AMI
Jane Doe	高橋 みなみ	2013.04.03	UM
誕生日には真白な百合を / Get the groove	福山 雅治	2013.04.10	UM
ブレインストーミング／君さえ居れば何も要らない	モーニング娘。	2013.04.17	EP

ビデオ

● ダブル・プラチナ

ARASHI LIVE TOUR Popcorn	嵐	2013.04.24	JA
--------------------------	---	------------	----

● プラチナ

namie amuro 5 Major Domes Tour 2012 ～20th Anniversary Best～	安室 奈美恵	2013.02.27	AMI
---	--------	------------	-----

● ゴールド

ももいろクリスマス2011 さいたまスーパーアリーナ大会	ももいろクローバーZ	2012.04.11	K
------------------------------	------------	------------	---

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、着うたフル®, パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万ごとに賞を設定		

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード)

※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※ **AMI**: エイベックス・マーケティング / **BV**: アリオラジャパン / **EP**: アップフロントワークス(ゼティマレーベル) / **JA**: ジェイ・ストーム / **K**: キングレコード / **SE**: エスエムイーレコーズ / **SI**: ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル / **SR**: ソニー・ミュージックレコーズ / **TE**: テイチクエンタテインメント / **UM**: ユニバーサルミュージック / **V**: ビクターエンタテインメント / **WJ**: ワナーミュージック・ジャパン

洋楽

アルバム

● プラチナ

レッド	テイラー・スウィフト	2012.10.24	UM
テイク・ミー・ホーム	ワン・ダイレクション	2012.11.13	SI

※日付は発売日

有料音楽配信(「着うた®」他)

※「着うた®」「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です

「着うたフル®」

邦楽

● プラチナ

レイニー・ブルー	徳永 英明	2005.11.09	UM
----------	-------	------------	----

● ゴールド

irony	ClariS	2010.10.13	SE
サラバ、愛しき悲しみたちよ	ももいろクローバーZ	2012.11.21	K
嵐の中で輝いて	米倉 千尋	2006.07.08	K

洋楽

● ゴールド

セプテンバー	アース・ウインド&ファイアー	2004.11.04	SI
--------	----------------	------------	----

「PC 配信(シングル)」

邦楽

● プラチナ

もっと強く	EXILE	2010.09.15	AMI
にんじゃりぼんぼん	きゃりーぱみゅぱみゅ	2013.03.13	WJ

● ゴールド

涙サプライズ!	AKB48	2009.06.24	K
Best Friend	Kiroro	2005.12.21	V
夜の踊り子	サカナクション	2012.08.29	V
366 日	清水 翔太 feat. 仲宗根 泉 (HY)	2012.09.12	SR
Continue	SEAMO	2008.10.22	BV
Hello	ナオト・インティライミ	2011.08.10	UM
Best Friend	西野 カナ	2010.02.24	SE
Be...	Ms.OOJA	2012.02.29	UM
猛烈宇宙交響曲・第七章「無限の愛」	ももいろクローバーZ	2012.03.07	K

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

一般社団法人日本音楽著作権協会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会および一般社団法人日本レコード協会の3団体で構成する「ミュージック・ジェイシス協議会」は、2013年5月7日をもって、これまで同協議会が運営してきた音楽情報の総合ポータルサイト「Music Forest(音楽の森)」の運営業務を株式会社ジャパンミュージックデータに移管することとしました。これに伴い、「Music Forest(音楽の森)」サイトの「データベース検索」は、同日より会員登録制によるご利用に変更することとなりました。

詳細は、「Music Forest(音楽の森)」サイト(<http://www.minc.gr.jp/>)掲載の「重要なお知らせ」をご確認ください。



エルマーキャラクター
エルマーくん

THE RECORD No.643 2013年6月号
一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 北川直樹
編集人 田口幸太郎
発行日 2013年6月12日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

桜も花粉症も例年より早まり、駆け足で過ぎていった今年の春。近頃では日も長くなり、帰宅の時間には、夜風とともに初夏の匂いを感じます。匂いといえば、「音」や「匂い」を商標登録可能とするよう、商標法の改正が検討中とのこと。欧米では既に認められており、例えばインテルのサウンドロゴやハーレーダビッドソンの排気音などが海外で商標登録されているそうですが、「匂い」の登録例は世界でも僅からしいです。TPPやFTAなど国際化を見据えての動きでしょうが、出願方法や審査など、いろんな意味で興味深いです。(T)